

参 考 資 料

(参考1) 「金融教育プログラムにおける年齢層別の金融教育内容」

金融広報中央委員会

(参考2) 「パーソナルファイナンス教育スタンダード」 日本FP協会

(参考3) 「Money as You Grow」 米・金融ケイパビリティに関する大

統領諮問委員会

2 金融教育の目標と内容等

図表5 年齢層別の金融教育内容 (注) 本表に示された各年齢段階ごとの教育内容は学習指導要領に示された内容と必ずしも一致しないものがあることに留意いただきたい。

| | 小学生 低学年 | 小学生 中学年 | 小学生 高学年 | 中学生 | 高校生 | |
|-------------------------|--|--|--|---|--|--|
| 資産管理と 資金運用 | <ul style="list-style-type: none"> ○使える資源には限りがある(予算制)の事を理解する ○隠れた予算の下でよりよい生活を築く意識を理解し、実践する態度を身につける ○意思決定の基本を理解し、実践する態度を身につける ○貯蓄の必要性を理解し、貯蓄の習慣を身につける ○期間と金利の関係を理解し、持続することの大切さを理解する ○様々な金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○欲しいものと必要なものの区別ができる ○資産の有限性、希少性を理解する ○年齢相応の金融管理をする | <ul style="list-style-type: none"> ○お金の価値を知り、ものやお金を大切にすること ○予算の範囲内でものを買うことができる | <ul style="list-style-type: none"> ○欲しいものやお年玉を貯めてみる ○こづかいやお年玉を貯めてみる ○貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身につける ○貼付強くやり過ぎる態度を身につける ○金利計算(単利)ができる | <ul style="list-style-type: none"> ○家計の収入・支出について理解を深める ○自分に必要なものやサービスの適切な選択・購入および使用ができる ○実践的な収支管理(簿記)を行う ○人には様々な価値観があることをお金の使い方を通じて理解する ○株や債券について理解する ○お金を投資する意義について考える ○リスクとリターンの関係について理解する ○期間と金利の関係を(複利計算)を知り、継続して貯蓄に取り組み態度を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○預金、株式、債券、保険等、様々な金融商品の内容を理解する ○金融商品のリスクとリターンについて理解する ○資金運用のバランスを考え、自己責任で選択する意識をもつ ○投資と投機の違いを考える |
| 生活設計 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる ○生活設計に必要な様々な知識を身につける ○生活設計と職業選択を関係づけて将来を現実的に考える | <ul style="list-style-type: none"> ○将来に使うかを考え、計画的に貯蓄する態度を身につける ○主な預金商品を知り、利息の違いについて理解する ○金利計算(単利)ができる | <ul style="list-style-type: none"> ○将来を考え金銭を計画的に使うことの大切さを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる ○よりよい生活を楽しむ工夫について考える ○ローンのしくみと機能について理解する ○ローンの役割を理論的に把握する ○生活設計を立て、生還収入、支出の内容を把握する ○ローンのしくみを理解し、返済方法や金利について考える ○年金や社会保険制度を理解する ○景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する ○職業選択と生活設計を関連づけた暮らしの現実性について考える | <ul style="list-style-type: none"> ○生活設計を立て、生還収入、支出の内容を把握する ○ローンのしくみを理解し、返済方法や金利について考える ○年金や社会保険制度を理解する ○景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する ○職業選択と生活設計を関連づけた暮らしの現実性について考える | |
| お金のたらしめ や金融の | <ul style="list-style-type: none"> ○お金のたらしめや役割を理解する ○金融機関の役割、中央銀行の機能について理解する ○金利のたらしめについて理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○お金のたらしめや役割を理解する ○お金のたらしめや役割を理解する ○銀行や郵便局に貯蓄し、利息について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○お金のたらしめや役割を理解する ○お金のたらしめや役割を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○お金の役割を整理して理解する ○金融機関の通帳と機能について理解する ○中央銀行の機能について理解する ○銀行の決済機能について理解する ○各種カードの種類、機能、しくみについて理解する ○金利のたらしめを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○お金の役割を理論的に把握する ○決済機能の多様化について理解する ○間接金融、直接金融について理解する ○金利の機能と変動の理由について理解する ○中央銀行の機能について理解を深める ○電子マネー、地域通貨等について理解する ○金融の自由化と自分の暮らしとの関係を理解する | |
| 経済把握 | <ul style="list-style-type: none"> ○ものやお金の流れと家計、企業、政府等の役割について理解する ○市場の働きや機能を理解し、市場経済の意義を理解する ○産業の発展と海外経済との関係について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○地域での生産活動を調査し、ものやお金がどう動いているのかを理解する ○ものやサービスの価値がどうして変わるのかを理解する ○企業はお金を借りて投資を行っていることを理解する ○海外との間のものやお金のやりとりについて理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、政府、銀行の間のものやお金のやりとりについて理解する ○ものの価値がどうして変わるのかを理解する ○企業はお金を借りて投資を行っていることを理解する ○海外との間のものやお金のやりとりについて理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、金融機関、政府、海外のものやお金の流れを理解する ○市場経済の意義を理解する ○円高、円安の意味と生活への影響を理解する ○株式会社の種類と役割、社会的責任について理解する ○企業が行う様々な資金調達方法について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、金融機関、政府、海外のもの、お金の流れの全体図を描く ○商品市場、金融市場、証券市場、為替市場の働きと機能を理解する ○企業の成立、存在意義、社会的機能について理解する ○経済のグローバル化について理解する | |
| 経済変動と 経済政策 | <ul style="list-style-type: none"> ○景気の変動と物価、金利、株の関係を理解する ○中央銀行や政府の経済政策について理解する ○景気変動や経済政策が自分の暮らしにどう関係しているかを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○経済が変動する理由を理解する ○経済変動とマクロ金融政策の関係を理解する ○中央銀行が行う金融政策について理解する ○政府の景気対策について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○経済が変動する理由を理解する ○経済変動とマクロ金融政策の関係を理解する ○中央銀行が行う金融政策について理解する ○政府の景気対策について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○経済変動のマクロ的なメカニズムを整理して理解する ○中央銀行の金融政策について理解する ○政府の景気対策と財政赤字について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○経済変動のメカニズムを整理して理解する ○中央銀行の金融政策について理解する ○政府の景気対策と財政赤字について理解する | |
| 経済と政府の 役割 | <ul style="list-style-type: none"> ○経済社会が抱える課題について幅広く関心をもつ ○課題解決に向けて合理的・主体的に考える態度を身につける ○政府の役割について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の暮らしと関連づけながら社会をもつて起きている問題に関心をもつ ○税金の種類とその意義について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の暮らしと関連づけながら社会をもつて起きている問題に関心をもつ ○税金の種類とその意義について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○新聞を読む習慣を身につける ○経済・社会の問題について幅広く関心をもつ ○個人・個人から政府の役割を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○関心ある課題について情報を収集し、深く理解する ○課題の解決に向けて、自ら合理的、主体的にかかわる態度を身につける ○経済社会の問題解決に向けて政府が行うべき施策について考える ○生きたお金の使い方について考える | |

2 金融教育の目標と内容等

2 金融教育の目標と内容等

| 目標 | 小学生 | | 中学生 | |
|------------------|--|---|--|--|
| | 低学年 | 高学年 | 小学生 | 中学生 |
| 自立した消費者 | <ul style="list-style-type: none"> ○消費者の権利に責任を自覚すること ○自立した消費者としての行動できる態度を身につける ○情報を収集し適切に活用することのできる技能を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さに気づく | <ul style="list-style-type: none"> ○契約の基本的な内容を理解する ○消費者基本法を通じて消費者の権利や義務について知る ○贈与物買付について理解する ○職場や社会に配慮した消費生活ができる | <ul style="list-style-type: none"> ○契約の意味と留意点および自己責任について理解する ○消費者契約法について理解する ○個人情報保護について理解する ○情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身につける |
| 金融トラブル | <ul style="list-style-type: none"> ○金融トラブルや多量債務の実態を知り、巻き込まれない態度を身につける ○法律や制度を活用して事業者に対処できる技能を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○困った時の対処方法や相談の仕方を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○クレジットカードの使用上の留意点について学ぶ ○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解する ○悪質商法や詐欺商法を見分け、被害に遭わないようにすることを学ぶ ○金利計算能力を身につけ、金利の重さを理解する ○クーリング・オフについて知る ○トラブルに遭ったときの相談窓口を知る | <ul style="list-style-type: none"> ○トラブルに対処する具体的方法を学び、実際に行使できる技能を養う ○各カードの役割や機能と使用上の留意点を学ぶ ○多量債務に陥った人の現状を知り、安易な借入を避ける ○金利の高さとローン返済額との関係を実感をもって知り、金利の重さを理解する ○多量債務の相談窓口を知り、相談できる |
| 健全な金銭観 | <ul style="list-style-type: none"> ○欲しい物をすべて手に入れることはできないことを知る ○物を大切に使う習慣を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○お金の使い方を通じて生活の大切さに気づき、実践する | <ul style="list-style-type: none"> ○少ないお金でも幸せに暮らしている人を知り、その価値観を考える ○伝記や小説を通じて先人の生き方や価値観について考える ○社会で起きている事件や犯罪とお金の関連について考える | <ul style="list-style-type: none"> ○個々人の金銭観と社会のあり方との関係について考える ○お金の願いや思いを込めて使う態度を身につける |
| 働く意欲と職業選択 | <ul style="list-style-type: none"> ○働く意欲とお金の価値の重さを理解する ○自分の職業選択について主体的に考える態度を身につける ○労働者の権利と義務について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○働く大切さや金銭を得ることの苦勞が分かる ○働くことを通じて社会に役立っていることを理解する ○自分の長所・短所を考え、将来つきたい職業に関心をもち | <ul style="list-style-type: none"> ○労働と賃金の関係を知る ○職業体験などを通じて、勤務の実態、つきたい職業について考え、情報を収集する ○勤務の意義と社会における役割を理解すること ○ネットやフリーターについて考える ○労働者の権利について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○進路選択を通じて具体的に職業選択について考える ○自分の選んだ職業とその社会的意義について考える ○働き方によって生計所得に大きな差が生じることを理解する ○働く者の権利を理解するとともに、働く者として義務を果たす態度を身につける |
| 生きる意欲と活力 | <ul style="list-style-type: none"> ○付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する ○付加価値の創出が経済社会発展の原動力であることを理解する ○自らの夢を描き実現に向けて努力する態度を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ○お店の人の工夫や努力に気づく | <ul style="list-style-type: none"> ○勤勞の大切さと金銭を得ることの苦勞が分かる ○働くことを通じて社会に役立っていることを理解する ○自分の長所・短所を考え、将来つきたい職業に関心をもち | <ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢を実現するための現実的なステップや手段を考え、なすべき努力を実践する ○起業を考え、それに必要な知識と実践的な企画を考える ○会社経営において付加価値を高める方法を理解する |
| 社会への感謝 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う ○よりよい社会を築くために何ができるかを考え実行する態度を養う | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の仕事に責任をもち、最後までやりとげる態度を養う ○生活を支えている人々に敬意と感謝の気持ちをもつ ○ルールを守ることの大切さを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ○みんなが協力して働くことの大切さを理解する ○お金の必要なら活動(ボランティア)に協力する ○お金の必要なら活動(ボランティア)に協力する ○お金の必要なら活動(ボランティア)に協力する ○お金の必要なら活動(ボランティア)に協力する | <ul style="list-style-type: none"> ○よりよい社会を展望し、それに向けて必要なこと、自分ができることを考え、実行する ○企業への社会的責任と社会貢献のあり方について、自分の職業選択に関連づけて考える ○法やルールを遵守することは市場経済が十分機能する上で重要なことを理解する |

バーンナルファイナンス教育スタンダード

Ver.1 (2010/9)

(参考2)

バーンナル・ファイナシヤル・プランニングに必要な知識・スキル

| 学校段階 | | 生活者段階 | |
|--|---|--|--|
| a 小学校卒業時点 | b 中学校卒業時点 | c 高等学校卒業時点 | d 学生・シングルライフ・ファミリーライフ |
| <p>○将来の目標・夢に関心をもちている。</p> <p>○仕事をすることでお金が得られることを知っている。</p> <p>○お小遣いやお年玉をもらっている。</p> <p>○お小遣い額を知っている。</p> <p>○お小遣い額を収入と支出の関係を知っている。</p> <p>○お小遣い額を収入と支出の関係を知っている。</p> | <p>○自らの人生の目標、夢を考へることができている。</p> <p>○様々な働き方、職種を知っている。</p> <p>○日常的な収入と支出の関係を知っている。</p> | <p>○生活を通じ、今後10年程度のライフプラン（生活設計）を立てることができている。</p> <p>○将来の働き方、職種によって収入が異なることを理解している。</p> <p>○今後10年程度のキャッシュフロー表を作成し、その収支の概要を理解している。</p> <p>○貯蓄などの現在価値と将来価値について概要を知っている。</p> | <p>○ライフプランを作成する意義や必要性を理解し、自らの人生目標に沿ったライフプランを立てることができている。</p> <p>○内的・外的な環境の変化に応じてライフプランを見直すことができる。</p> <p>○財産の相続や事業承継の必要性を考へ、その計画を立てることができる。</p> <p>○キャリア計画（職業生活設計）を立て、必要な自己啓蒙を行うことができる。</p> <p>○キャッシュフロー表を作成することを通じて、長期的な家計の収支状況と問題点を理解している。</p> <p>○結婚資金、教育資金、住居資金などが必要となる時期を考へ、資金の準備を計画することができる。</p> <p>○必要に応じて保険等を考へ、資産などの現在価値と将来価値を計算することができる。</p> <p>○ファイナンシャル・プランナー（FP）など専門家と相談しながらライフプランを実行し、必要に応じて見直しを行うことができる。</p> |
| <p>○お小遣いやお年玉を、保護者を通じて基礎段階に預けることができる。</p> <p>○目的を考へてお小遣いやお年玉を貯蓄することができる。</p> <p>○金利の概念を理解し、預金期間などに応じた利率の違いに関心をもちている。</p> <p>○普通預金、定期預金など主要な貯蓄手段があることを知っている。</p> | <p>○目的を考へてお小遣いやお年玉を貯蓄することができる。</p> <p>○金利の概念を理解し、預金期間などに応じた利率の違いに関心をもちている。</p> <p>○普通預金、定期預金など主要な貯蓄手段があることを知っている。</p> | <p>○貯蓄、投資の仕組みや特徴の概要を理解している。</p> <p>○専利・複利の計算を理解している。</p> <p>○株式、債券、投資信託など主要な投資手段の概要を理解している。</p> <p>○主要な貯蓄、投資手段のリスクとリターンの関係、リスクの種類・性質の概要を理解している。</p> <p>○自己責任原則と預金者・投資家保護制度の概要を理解している。</p> | <p>○計画に貯蓄・投資を行うことができる。</p> <p>○内的・外的な環境の変化に応じて、貯蓄・投資計画を見直すことができる。</p> <p>○利回りの差による長期的な運用結果を比較することができる。</p> <p>○専門家と相談しながら、貯蓄・投資手段の特性（流動性、安全性、収益性）、専門家の相談しながら、リスクの種類・性質を踏まえて、資産の再活用計画に合った貯蓄・投資手段や金融商品を選択することができる。</p> <p>○適切な金融機関を選択し金融商品を検討するために、開示された情報を理解することができる。</p> <p>○貯蓄・投資手段や金融商品によって預金者・投資家保護制度が異なることを理解し、金融取引のトラブルについて相談できる機関を理解している。</p> <p>○税金・社会保険料の使途を理解することにより、税金・社会保険料の納付義務を理解している。</p> <p>○税金の種類、税率、控除要件を、最近の税制を基に理解している。</p> <p>○税金の納付方法（源泉徴収、年末調整、確定申告など）を理解している。</p> <p>○各種社会保険の保険料納付方法、保障内容、受給手続きを理解している。</p> <p>○公的年金の受給要件及び将来の受給見込み額の概要を理解している。</p> <p>○公的年金への加入記録を確認する方法を理解している。</p> <p>○社会保険の境界や将来のライフイベント上のリスクを踏まえ、必要は民間保険に加入するとともに、保険の見直しを行うことができる。</p> <p>○様々な民間保険商品がもつ特徴の概要を理解している。</p> <p>○様々な民間保険商品がもつ特徴の概要を理解している。</p> <p>○適切な保険会社を選択し保険商品を検討するために、開示された情報を理解することができる。</p> <p>○自らの保険契約の保障内容や保険金額を理解し、専門家と相談しながらリスクマネジメントを行うことができる。</p> |
| <p>○公共施設の利用を学ぶことを通じて、公共サービスの存在に関心をもちている。</p> | <p>○税金は公共サービスの対価であることを知っている。</p> <p>○収入や物の購入に消費税がかかることを知っている。</p> <p>○社会保険は、社会的なセーフティネットを目的として知られている。</p> <p>○社会保険の4つの柱（社会保険・公的扶助・公営衛生・社会福祉）を知っている。</p> <p>○事故や災害で生活が大きな影響を受けることに関心をもちている。</p> <p>○健康には、社会保険と民間保険があることを知っている。</p> | <p>○税金・社会保険料の支払い義務を理解している。</p> <p>○社会保険の目的と役割を理解している。</p> <p>○社会保険の種類（公的年金、健康保険、介護保険、雇用保険など）の概要を理解している。</p> <p>○今起ったら経済的に困ることを考へることにより、その経済的損失の大きさを考へることができる。</p> <p>○社会保険と民間保険との補充関係を理解している。</p> <p>○民間保険の種類（生命保険、損害保険など）の概要を理解している。</p> <p>○保険契約者に対する保護制度の概要を理解している。</p> | <p>○公的年金の受給手続きを行うことができる。</p> <p>○ライフスタイルの変化に応じて、加入している民間保険を見直すことができる。</p> <p>○保険商品によって、保障年齢や年齢に応じた保険金額に相違があることを理解している。</p> <p>○適切な情報を理解することができる。</p> |

日常生活で必要な知識・スキル

| 学校段階 | | 生活者段階 | |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|---|
| a. 小学校卒業時点 | b. 中学校卒業時点 | c. 高等学校卒業時点 | d. 学生・シングルライフ、ファミリーライフ、シニアライフ |
| ○お小遣い帳をつけることで、何にお金を使ったかを知っている。 | ○消費行動をニーズとウォンツに区別することを知っている。 | ○日々の消費行動をニーズとウォンツに当てはめてコントロールすることができる。 | ○様々な要素を考慮に入れて、自らの消費行動を適切にコントロールすることができる。 |
| | ○消費には様々な決済手段（クレジットカードなど）があることを知っている。 | ○様々な決済手段がもつ利便性と問題点の概要を理解している。 | ○様々な決済手段の利便性と問題点を理解し、必要に応じてこれらの決済手段を使い分けすることができる。 |
| | ○契約の概念を知っている。 | ○契約の成立と契約によって生じる権利・義務について理解している。 | ○運賃保証人・保証人になることによって生じる責任を理解している。 |
| | ○クーリングオフなどの消費者保護制度の存在を知っている。 | ○クーリングオフなど消費者保護制度の概要を理解している。 | ○様々な販売・勧誘行為に適用される法令や制度を理解し、契約締結やクーリングオフ制度を含めた契約取消し手続きを行うことができる。 |
| | ○多量債務などお金のトラブルが存在することを知っている。 | ○多重債務などのお金のトラブルを学ぶことを通じ、トラブルの発端と対処方法（消費生活センターなどに相談する）を理解している。 | ○契約に関連するトラブルが発生した場合、適切な機関に相談することができる。 |
| | ○お金を借りることで利益が発生することを知っている。 | ○住宅ローン等お金を借りる際の利息を計算することによって、金利負担の程度を理解している。 | ○公的ローンや民間ローンの長所・短所を理解し、必要に応じて専門家と相談しながら目的に見合ったローンを選択することができる。 |
| | | ○信用とお金を借りることの関係性を理解している。 | ○借入の必要性と自らの返済能力を踏まえた上でローンを利用し、計画的に返済を行うことができる。 |
| | | ○情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、情報を収集することができる。 | ○収集した情報を比較することにより、適切な消費行動をすることができる。 |

V 消費生活・契約

分野横断的に有しておくべき知識・スキルや行動指針

| 学校段階 | | 生活者段階 | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---|--|
| a. 小学校卒業時点 | b. 中学校卒業時点 | c. 高等学校卒業時点 | d. 学生・シングルライフ、ファミリーライフ、シニアライフ |
| ○物・サービスの価値に關心をもっている。 | ○価格と需要・供給の関係を知っている。 | ○物・サービスの価値の変動要因を理解している。 | ○代表的な金融・経済指標などに基づいて、景気の大まかな動向を把握することができる。 |
| ○経済活動にはお金が必要であることを知っている。 | ○金融が家計・企業間のお金の循環の役割をすることを知っている。 | ○金融市場（株式、債券市場など）の機能の概要を理解している。 | ○金融市場の主な変動要因と、市場の変動が家計・企業の活動に与える影響を理解している。 |
| | ○経済の構成主体が家計、企業、政府であることを知っている。 | ○家計・企業・政府の物・サービス、お金の流れと、金融機関の役割を理解している。 | ○金融政策が行われる背景や目的を理解し、金融政策が家計・企業の活動に与える影響を予測することができる。 |
| | ○財政のおおまかな役割を理解している。 | ○財政が国民生活で果たす役割を理解している。 | ○財政政策が行われる背景や目的を理解し、財政政策が家計・企業の活動に与える影響を予測することができる。 |
| | ○外国為替市場の存在を知っている。 | ○外国為替市場の機能の概要を理解している。 | ○外国為替市場の主な変動要因と、その変動が家計・企業の活動に与える影響を理解している。 |
| ○保護者や友達との約束を守ることをできる。 | ○ルールの大切さを理解し、守ることができる。 | ○自立的に考え行動した結果に責任が生じることを理解している。 | ○適用を要する法令や規則を順守だけでなく、幅広い倫理観をもって行動することができる。 |
| ○日常生活と環境とのつながりに關心をもっている。 | ○環境に配慮した物・サービスに關心をもっている。 | ○環境に配慮した消費生活を送ることの重要性を理解している。 | ○環境問題の重要性を理解し、日常生活において資源の有効活用や環境保護に努めることができる。 |
| ○買い物などの消費生活を通じ、物や金銭の大切さに關心をもっている。 | ○お金の使い方について様々な価値観があることを知っている。 | ○社会に配慮する観点からお金の使い道を考えることができる。 | ○可能な範囲で寄付や SRI（社会的責任投資）を行うことができる。 |
| ○家庭や学校等の場で、進んでみんなのために働くことができる。 | ○働くことは単にお金を稼ぐだけでなく、社会貢献につながることを知っている。 | ○ボランティア活動の意義を理解している。 | ○自らの判断でボランティア活動に参加するとともに、受益者となる場合にはボランティアサービスを適切に評価することができる。 |
| | ○先人たちの築いた金融経済に対する考え方や金融観に關心をもっている。 | ○先人たちの築いた金融経済に対する考え方や金融観を理解している。 | ○先人たちの築いた金融経済に対する考え方や金融観を理解することで、自分の価値観を見直すことができる。 |
| | | ○企業の社会貢献について評価している。 | ○企業の社会貢献について評価することができる。 |

VI 金融経済の仕組み・考え方

※1: 学校段階においては、「総合的な学習の時間」や「職業体験」「社会科」「理科」「算数」「国語」などで「ボランティア活動」に関する学習を行う。また、「ボランティア活動」に関する学習を行う際には、ボランティア活動の意義やボランティア活動の役割について学習する。

※2: 2019年10月1日より、消費生活センターが「消費生活相談員」に「消費生活アドバイザー」の職名を付している。①「消費生活アドバイザー」は、消費生活に関する相談や指導を行う。②「消費生活アドバイザー」は、消費生活に関する相談や指導を行う。③「消費生活アドバイザー」は、消費生活に関する相談や指導を行う。

※3: 生活習慣病に関する取組の推進は、必ずしも政策的に世代間の役割分担を定めているわけではない。



日本PTA協会

(参考3)

Money as You Grow

-20 things kids need to know to live financially smart lives

3-5 歳

- ・物を買う時にお金が必要であること。
- ・働くことによってお金を稼ぐこと。
- ・何か欲しい物を買う前に、本当に必要か検討しなければならないこと。
- ・欲しいことと必要であることは違うということ。

6-10 歳

- ・お金の使い方について選択すること。
- ・購入前に店をみてまわり価格を比較することが望ましいこと。
- ・オンラインで情報共有することは、費用が発生するとともに、危険を伴うこと。
- ・貯蓄口座にお金を預けることはお金を守るとともに、利子がつくこと。

11-13 歳

- ・少なくとも受け取った1ドルのうち10セント(10%)は貯蓄すべきであること。
- ・クレジットカード番号をオンラインで入力することは、誰かに盗まれる危険性があること。
- ・貯蓄を早く始めれば始めるほど、複利でよりはやくお金が貯まること。
- ・クレジットカードはローンの一形態。毎月カードばかり使うと、利息が発生し、当初の支払いよりも支払いが増えてしまうこと。

14-18 歳

- ・大学を選ぶ以前に、大学では費用がかかることを知ること。
- ・現金で支払えないものを買う際には、クレジットカードの利用を避けるべきであること。
- ・最初の給料が税引きされることにより、想定より少なくなること。
- ・稼いだお金の貯蓄・投資の相応しい場所が個人退職口座(IRA)であること。

18 歳以上

- ・ 毎月支払い可能な範囲でクレジットカードを利用すべきであること。
- ・ 健康保険の必要性。
- ・ すべての資金を一つの金融商品に投資することは危険な方法であり、株、債券、現金に分散して投資することを検討すること。
- ・ 投資する前には、金融商品のリスクと年間手数料の2つの要素を常に検討すること。